



## 自動取り込み機能 設定ガイド

---

**PFU**  
a Fujitsu company

## はじめに

本書は、楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart の自動取り込み機能の概要および設定方法について説明しています。楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart の動作環境および基本操作については、『楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart を使おう!』または『楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart ヘルプ』を参照してください。

本書で使用する用語や略記については、「本書の記載について」(35 ページ)を参照してください。

楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart には、本書の他にもマニュアル・ヘルプがあります。それぞれのマニュアルの使い方は『楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart はじめにお読みください』を参照してください。

# 目次

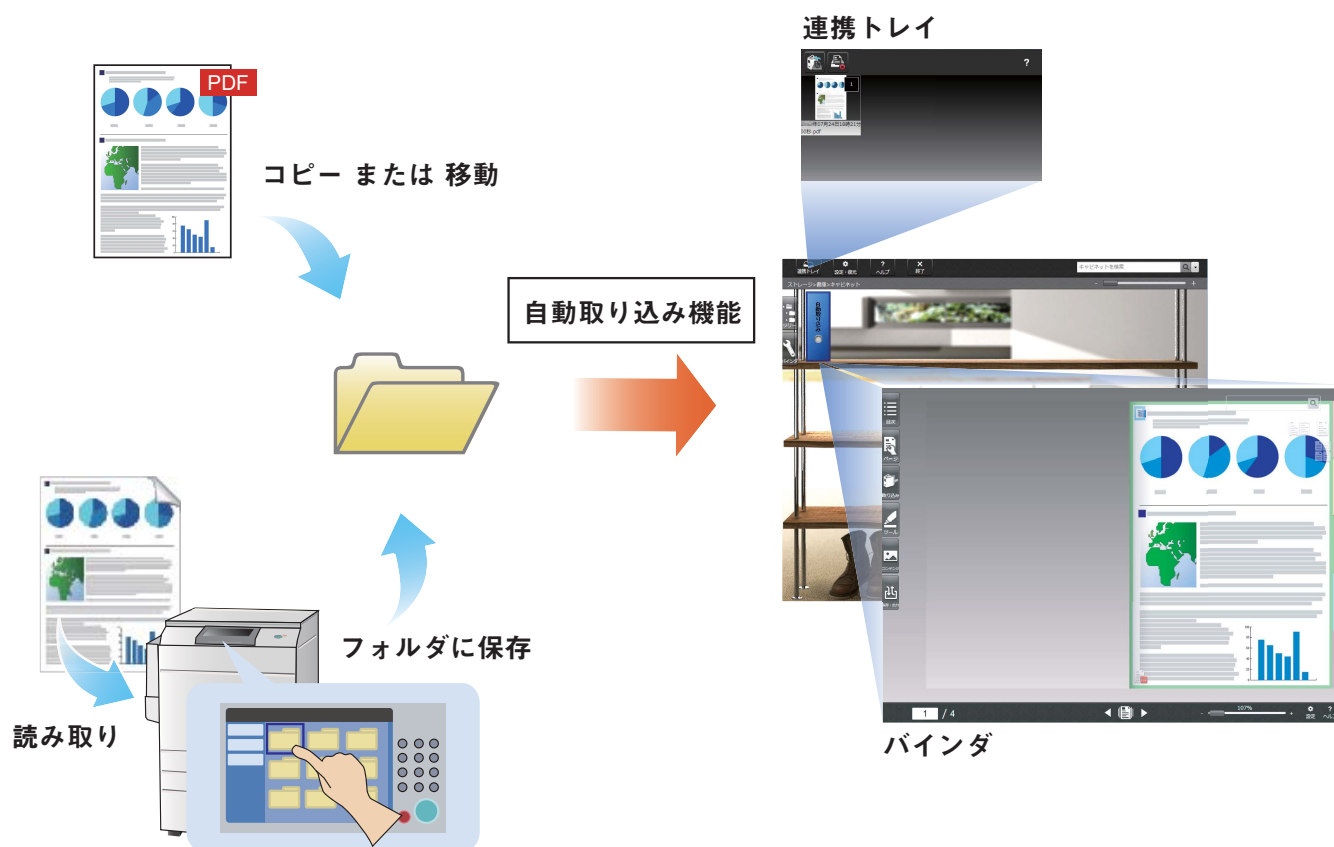
---

はじめに .....	2
自動取り込み機能とは .....	4
自動取り込み機能の設定 .....	5
仕様と注意事項 .....	27
困ったときには .....	32
本書の記載について .....	35

## 自動取り込み機能とは

自動取り込み機能は、楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart を起動せずに、バインダまたは連携トレイにファイルを取り込む機能です。自動取り込み機能では、以下のことができます。

- フォルダにファイルをコピーまたは移動するだけで、あらかじめ指定したバインダまたは連携トレイにファイルを取り込めます。
- 複合機などで読み取った紙文書を特定のフォルダに保存すると、あらかじめ指定したバインダまたは連携トレイに取り込めます。



### 備考：自動取り込み機能の仕様

自動取り込み機能の詳細は、「仕様と注意事項」(27 ページ) を参照してください。

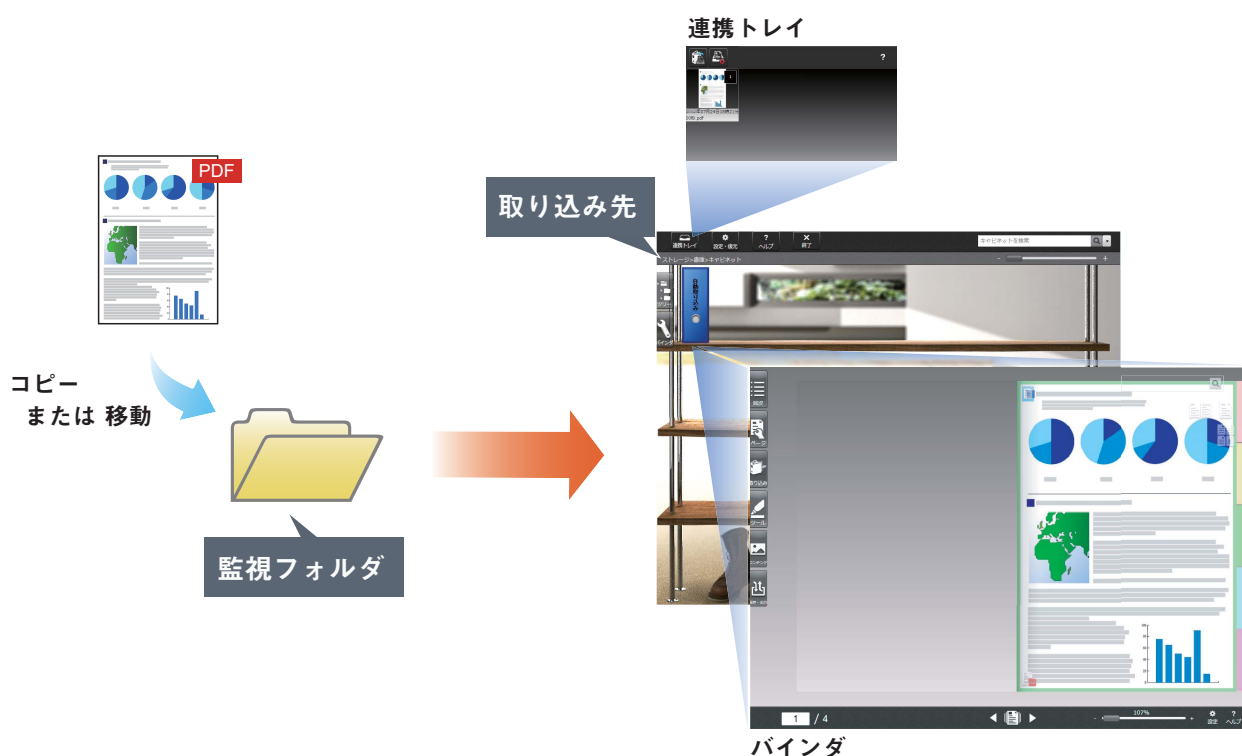
# 自動取り込み機能の設定

自動取り込み機能の設定について、以下の流れで説明します。

- 設定のための基礎知識
- 自動取り込み機能を有効にします（初回のみ）
- 設定を作成します
  1. バインダを作成します（設定の準備）
  2. 設定を行います
  3. ファイルを取り込みます（動作確認）
  4. 取り込み結果を確認します
    - 4.1 取り込みに成功したか確認します
    - 4.2 取り込んだファイルの内容を確認します

## 設定のための基礎知識

自動取り込み機能の設定では、自動取り込みの対象となるフォルダと、ファイルが取り込まれるバインダまたは連携トレイとを連携する設定を行います。自動取り込みの対象となるフォルダを「監視フォルダ」、ファイルが取り込まれるストレージ、書庫、キャビネット、バインダ、または連携トレイを「取り込み先」といいます。

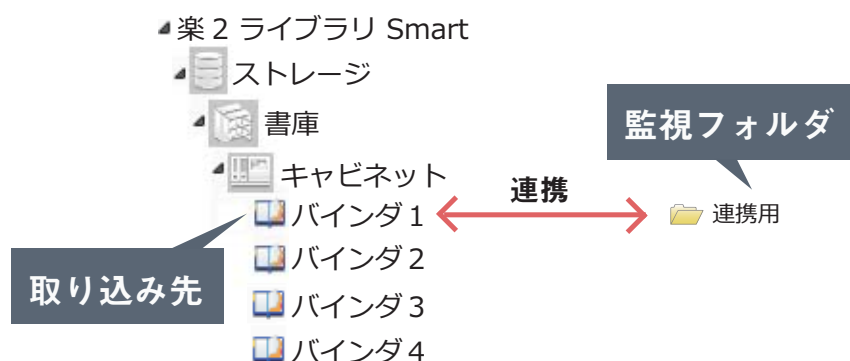


以下の3種類の設定ができます。

- ひとつのバインダとフォルダを連携する

任意のバイндаとフォルダを連携できます。

取り込み先と監視フォルダにそれぞれ任意のバイндаとフォルダを設定します。

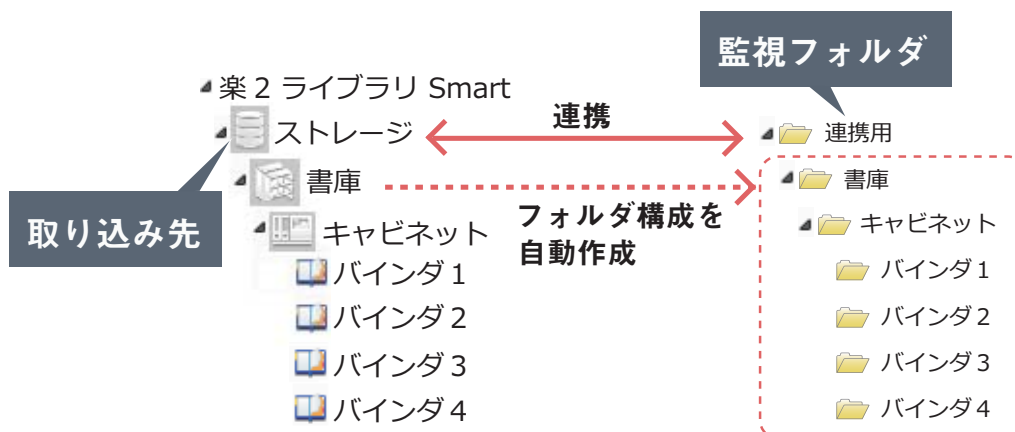


### • 複数のバイндаとフォルダを連携する

ストレージ、書庫、またはキャビネットをフォルダと連携することで、ストレージ、書庫、またはキャビネット配下のバイндаと、バイнда構成に対応するフォルダを一度に連携できます。「バイнда構成」とは以下の図の楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart の構成を指しています。

この設定を行うと、バイндаに応じたフォルダがバイндаタイトル名で自動的に作成されるため、事前にフォルダの構成を作成する必要はありません。

バイнда構成のうち、一部のバイндаのみを選択して連携することもできます。この場合、選択したバイндаの数に応じたフォルダが作成されます。



### • 連携トレイとフォルダを連携する

連携トレイとフォルダを連携できます。

取り込み先と監視フォルダにそれぞれ連携トレイと任意のフォルダを設定します。

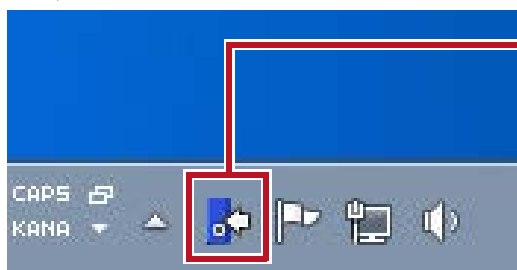
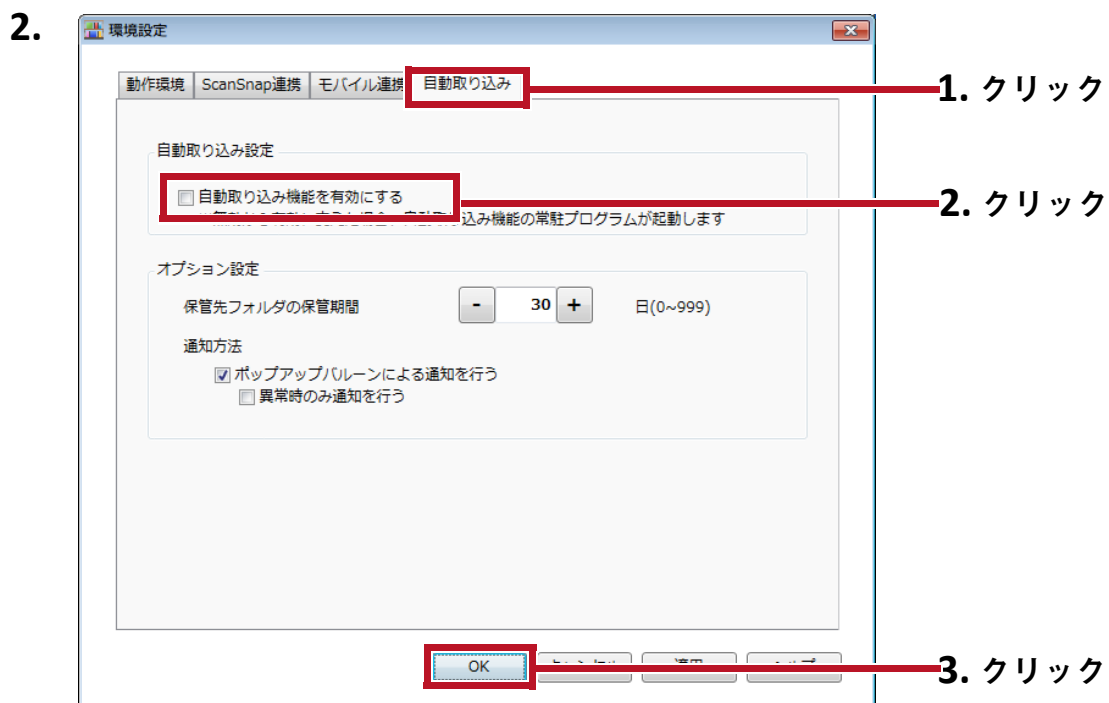
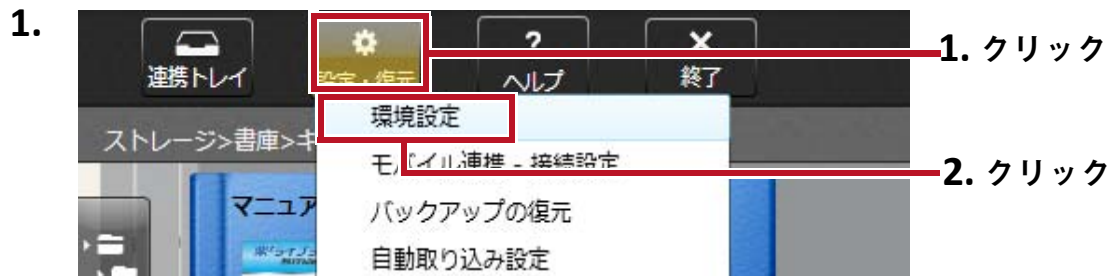
この設定を行うと、ファイルをいったん連携トレイに取り込んで、あとからバイндаに振り分け保存できます。



## 自動取り込み機能を有効にします（初回のみ）


自動取り込み機能を起動して、使用できるようにします。いったん設定すると、次にパソコンにログインしたときに、自動的に自動取り込み機能が起動するようになります。

### 操作



自動取り込み機能が起動します。

Windows のタスクトレイに  が表示されます。

アイコンが表示されない場合、タスクバーの  をクリックします。

**備考：自動取り込み機能の使用中にパソコンのユーザーの切り替え、ログオフ、スリープ、または休止を行う場合**

自動取り込み機能は、パソコンをログオフ、スリープ状態、または休止状態にすると停止します。自動取り込み機能の使用中に他のユーザーに切り替えても機能は動作し続けますが、そのユーザーがログオフすると動作は停止します。



## 設定を作成します

自動取り込み機能の設定を作成します。以下の流れで作成します。

1. バインダを作成します (設定の準備)
2. 設定を行います
3. ファイルを取り込みます (動作確認)
4. 取り込み結果を確認します
  - 4.1 取り込みに成功したか確認します
  - 4.2 取り込んだファイルの内容を確認します

### 1. バインダを作成します (設定の準備)

バインダにファイルを取り込む場合、設定を行う前に、取り込み先のバインダを作成しておく必要があります。

複数のバインダとフォルダを連携する場合、取り込み先の配下のバインダ構成をすべて作成します。

連携トレイとフォルダを連携する場合、この操作は不要です。「2. 設定を行います」(11 ページ) から操作してください。

#### 注意: バインダのタイトルに数字や記号を使用する場合

「バインダタイトル#数字 (バインダタイトル#1 など)」のように「#数字」を末尾に付けたタイトルを設定しないでください。「#数字」を末尾に付けたタイトルのバインダは、連番付きバインダとして扱われます。連番付きバインダについては「仕様と注意事項」(27 ページ) を参照してください。

#### 備考: 複合機などのパネルに監視フォルダを表示させる場合

- 監視フォルダの名前にパネルに表示できない文字を使用しないでください。  
複数のバインダとフォルダを連携する場合は、バインダのタイトルがフォルダ名になるため、バインダのタイトルにパネルに表示できない文字を使用しないでください。バインダのタイトルに1列目と2列目の両方が設定されている場合、作成されるフォルダ名は「タイトル1列目\_タイトル2列目」のようになります。使用している複合機などの種類によっては「\_ (アンダーバー)」が表示できない可能性があるため注意してください。  
パネルに表示できない文字の種類については、使用している複合機などのマニュアルを確認してください。
- パネルの表示を簡潔にするために、保管先フォルダを隠し属性にしておくことをお勧めします。  
保管先フォルダについては「仕様と注意事項」(27 ページ) を参照してください。保管先フォルダを隠し属性にする方法については『楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart ヘルプ』を参照してください。

## ●ひとつのバイндаとフォルダを連携する場合

楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart を起動し、バイндаを作成します。



## ●複数のバイндаとフォルダを連携する場合

楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart を起動し、設定に必要な数のストレージ、書庫、キャビネット、およびバイндаを作成します。

フォルダが作成される時、ここでつけた書庫名、キャビネット名、またはバイндаのタイトルがフォルダ名になります。バイндаのタイトルに1列目と2列目の両方が設定されている場合、作成されるフォルダ名は「タイトル1列目\_タイトル2列目」のようになります。



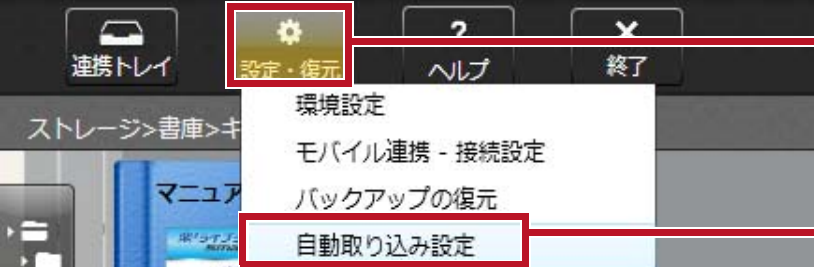
**備考：ストレージ、書庫、キャビネット、またはバイндаを作成する方法**


『楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart ヘルプ』を参照してください。

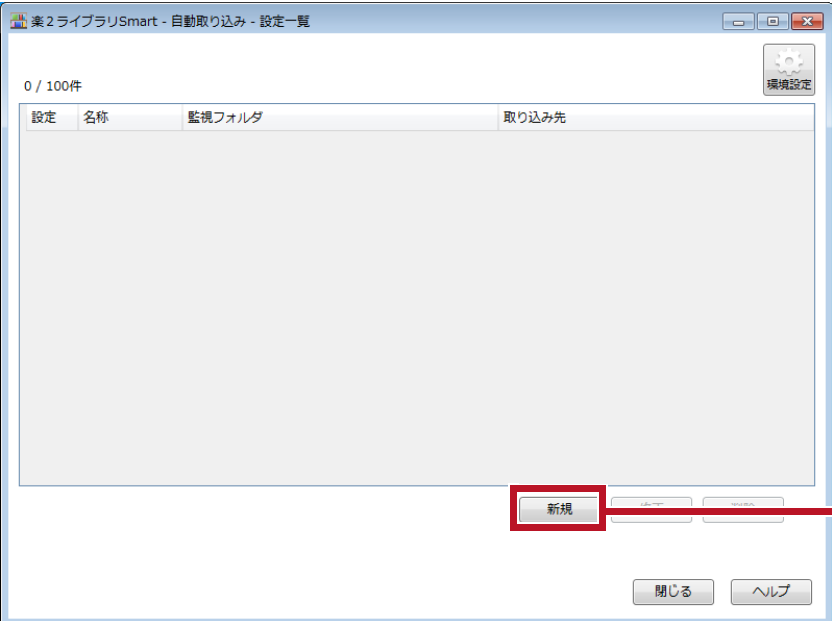
## 2. 設定を行います

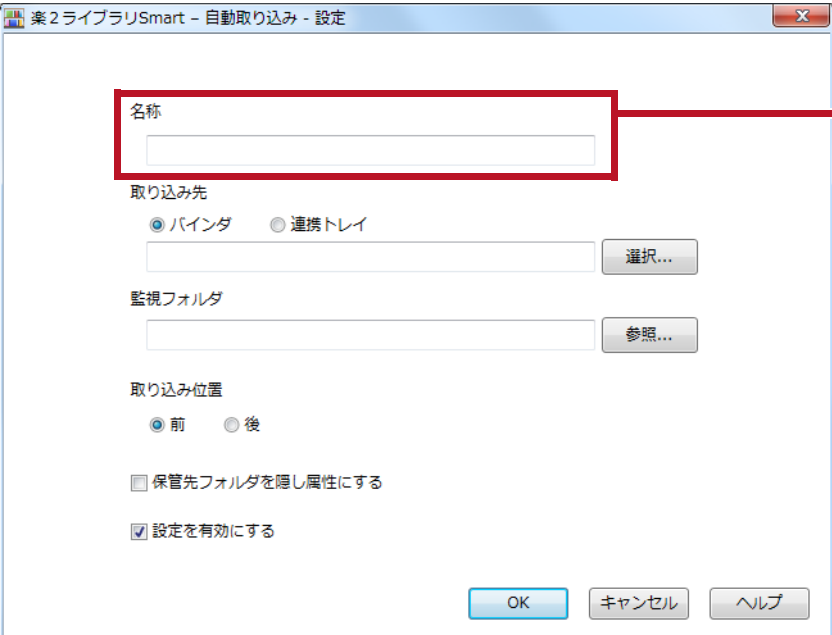
自動取り込み機能の新しい設定を作成します。

### 操作

1.  1. クリック

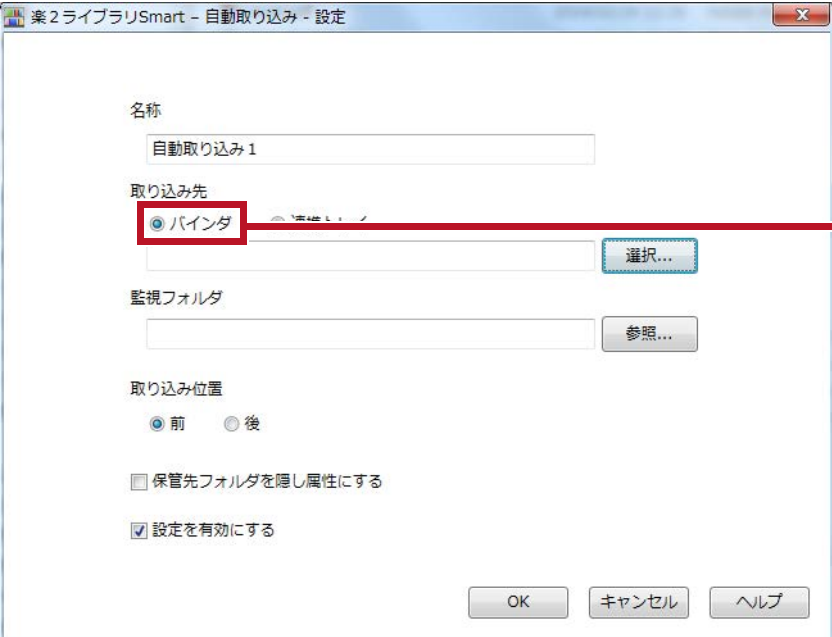
2.  2. クリック

2.  クリック

3.  自動取り込みの設定の名称を入力

入力した名称が [自動取り込み - 設定一覧] 画面に表示されます。

## ●ひとつのバイндаとフォルダを連携する場合

4. 

名称  
自動取り込み 1

取り込み先  
 バイнда  連携トレイ  
選択...

監視フォルダ  
参照...

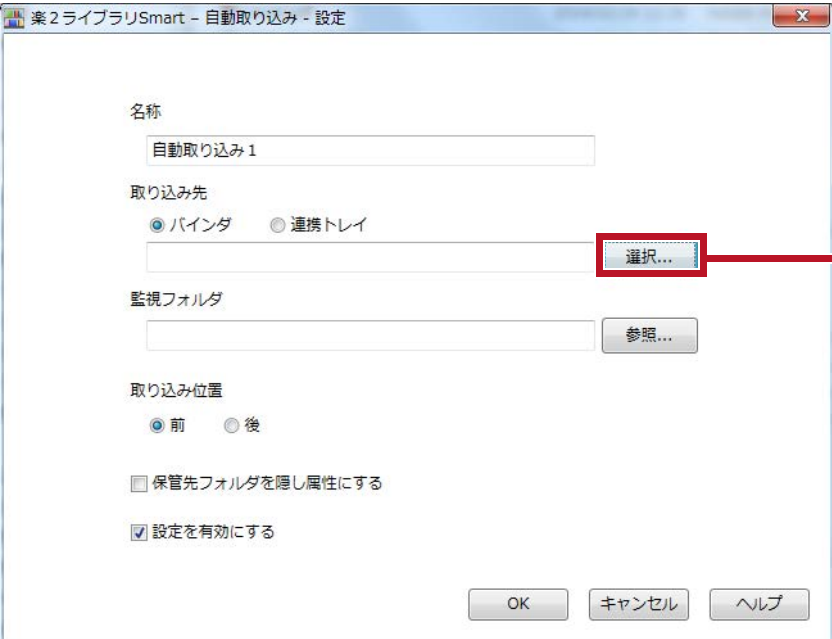
取り込み位置  
 前  後

保管先フォルダを隠し属性にする

設定を有効にする

OK キャンセル ヘルプ

クリック

5. 

名称  
自動取り込み 1

取り込み先  
 バイнда  連携トレイ  
選択...

監視フォルダ  
参照...

取り込み位置  
 前  後

保管先フォルダを隠し属性にする

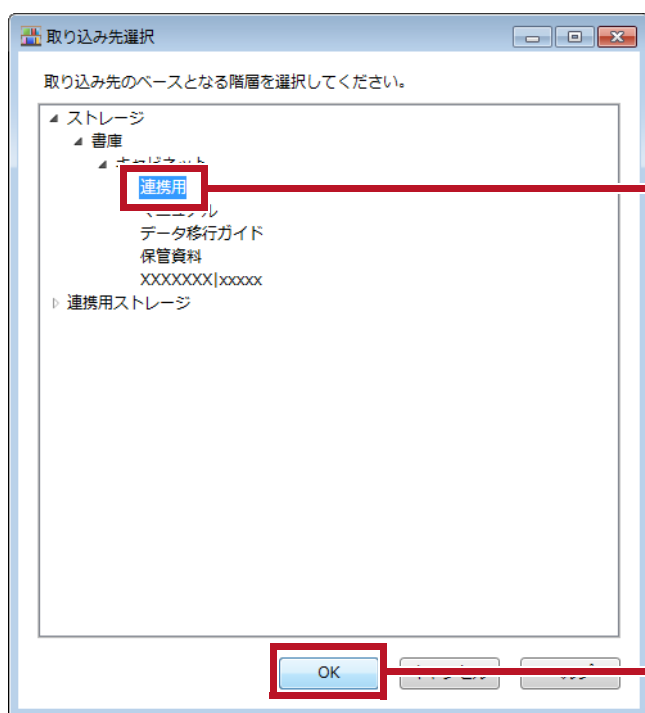
設定を有効にする

OK キャンセル ヘルプ

クリック

取り込み先のバイндаを選択します。

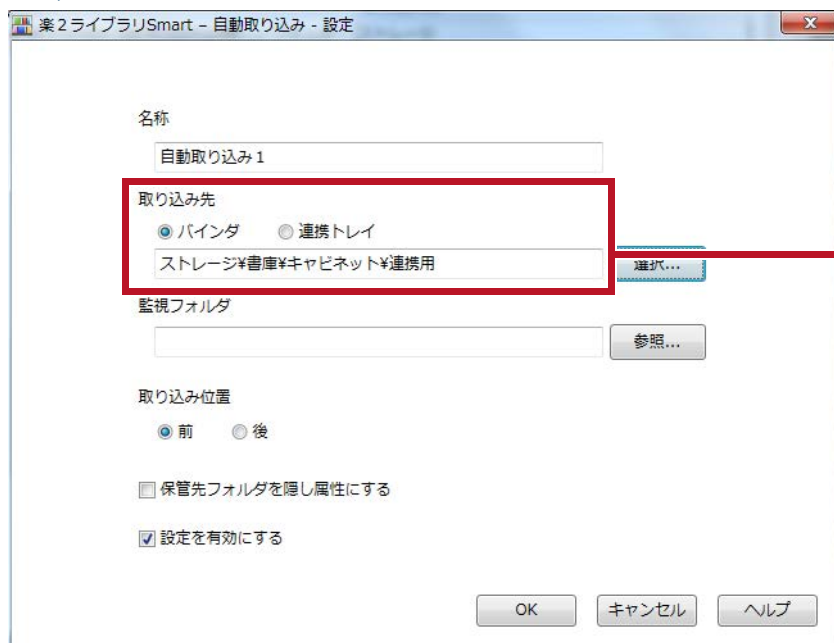
6.



1. クリック

バインダのタイトルの2列目が設定されている場合は、以下のように表示されます。  
タイトル1列目 | タイトル2列目

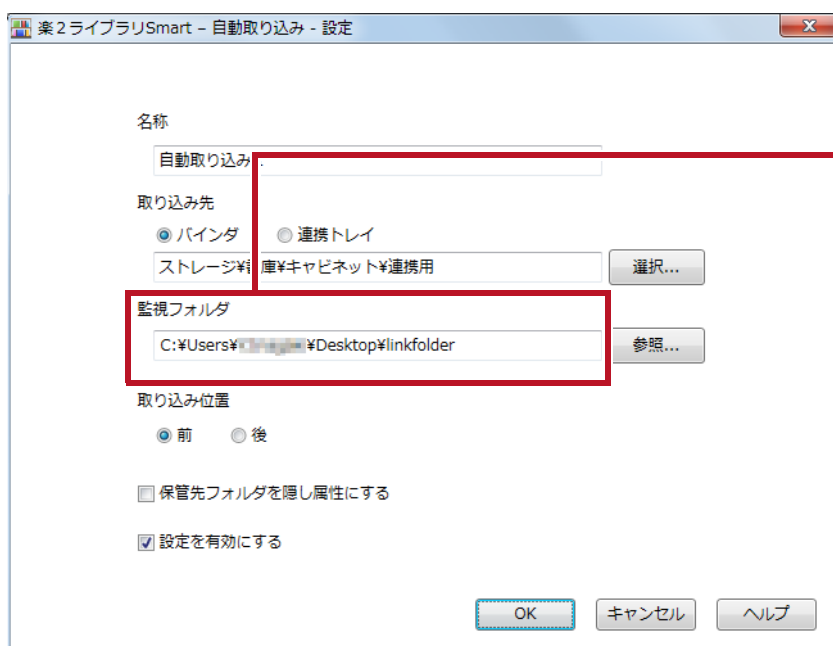
2. クリック



[取り込み先] に選択したバインダのタイトルが表示されます。

[取り込み先] は以下のように表示されます。  
ストレージ名 ¥ 書庫名 ¥ キャビネット名 ¥ バインダのタイトル1列目 \_ バインダのタイトル2列目

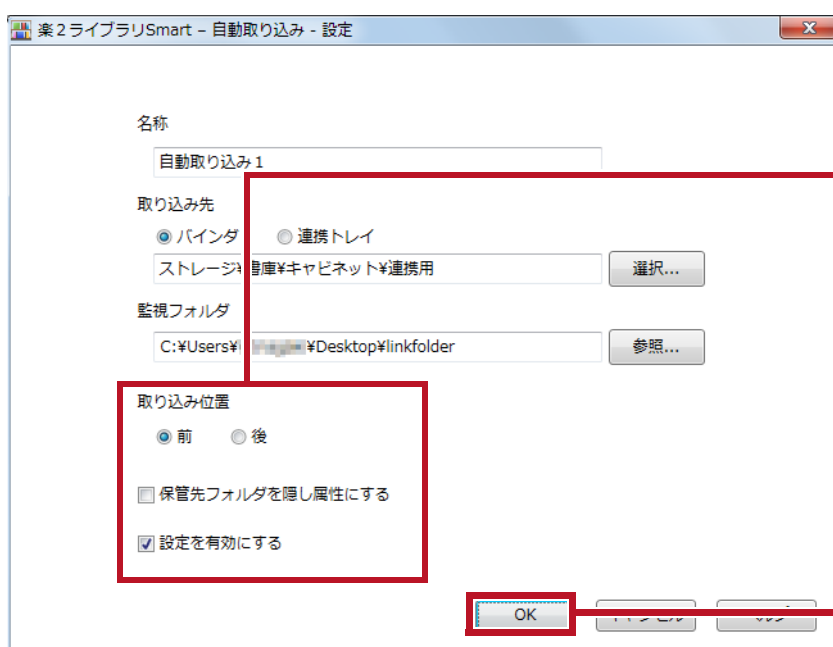
7.



監視フォルダを選択

[監視フォルダ] は [参照] ボタンをクリックしてフォルダを選択します。または、フォルダをフルパスで指定します。

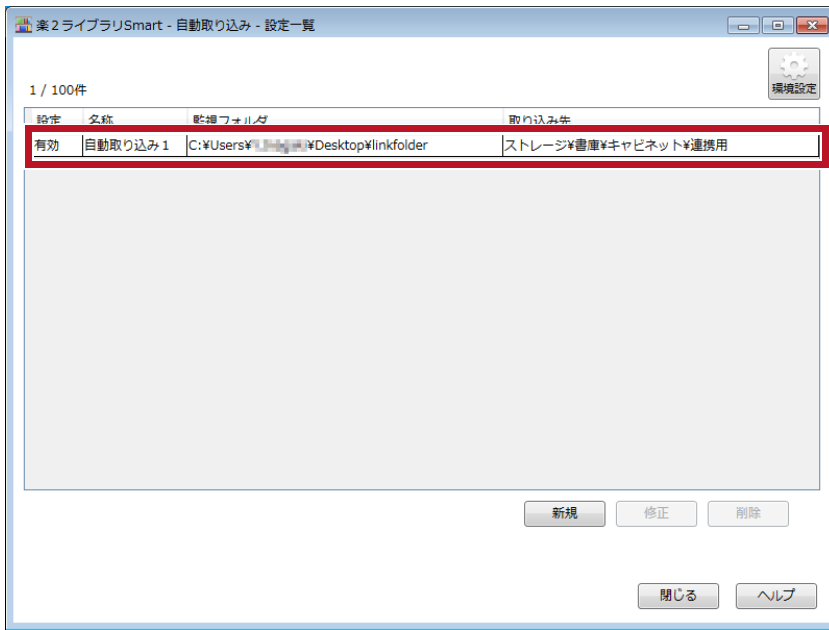
8.



その他の項目を設定

設定のみを行い、設定した内容で自動取り込みを開始しない場合は、「設定を有効にする」のチェックをはずします。その他の設定項目については、『楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart ヘルプ』を参照してください。

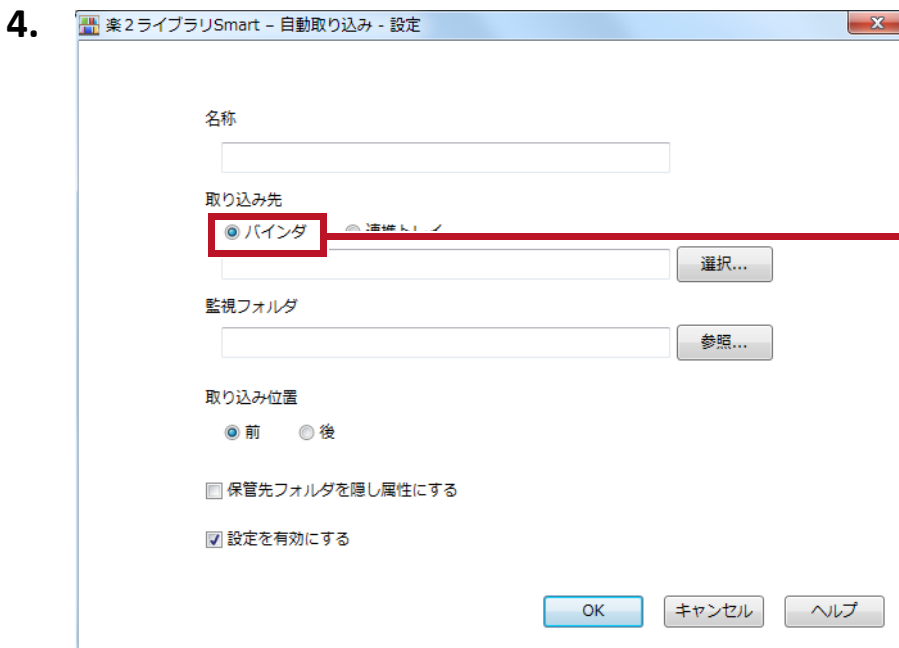
クリック



作成した設定が表示されます。

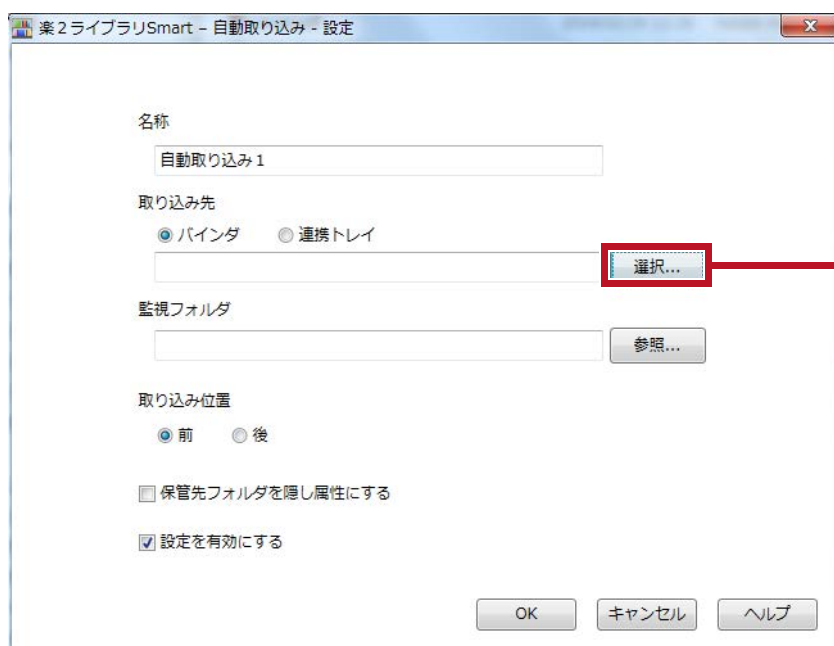
### ●複数のバインダとフォルダを連携する場合

ここでは、ストレージの配下のバインダを連携する場合の設定を説明します。



クリック

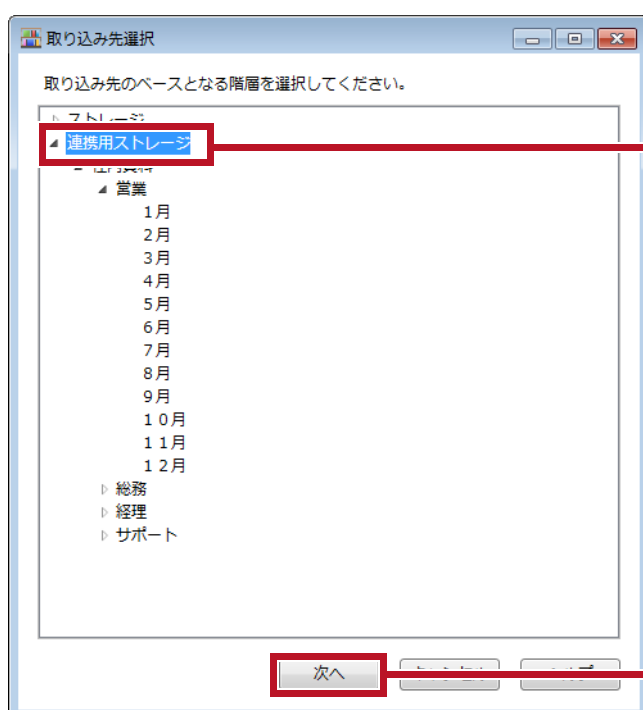
5.



クリック

取り込み先のバインダを選択します。

6.

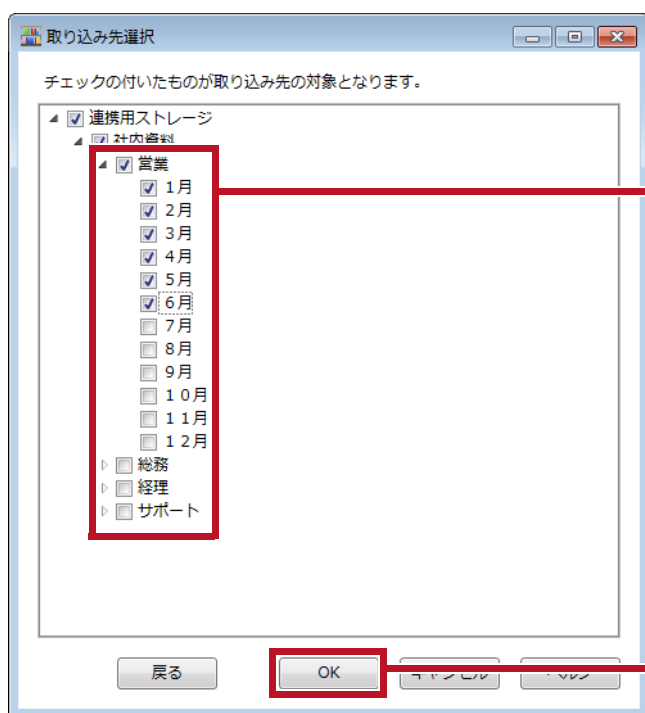


1. クリック

2. クリック



7.

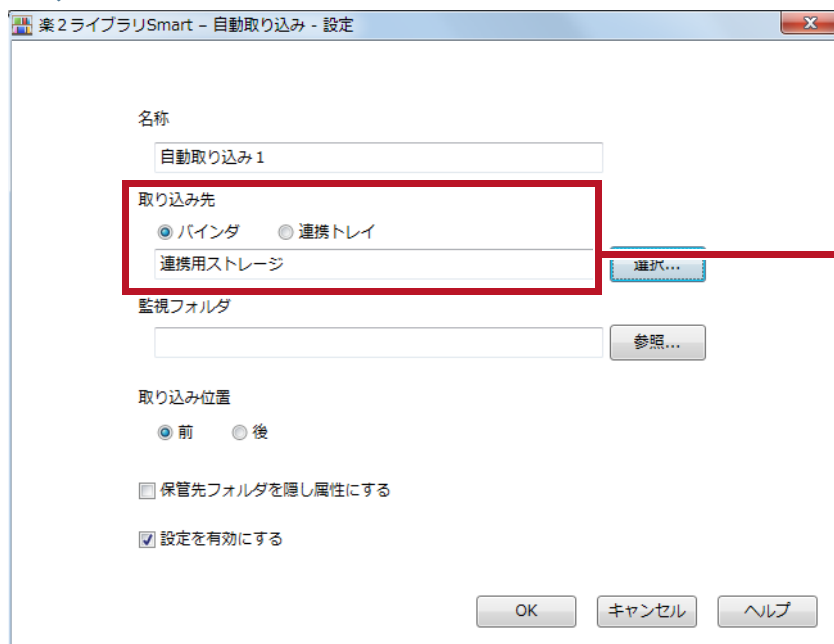


1. 取り込み先として指定しないバイ  
ンダのチェックをはずす

バインダのタイトルの2列目が設定さ  
れている場合は、以下のように表示さ  
れます。

タイトル1列目 | タイトル2列目

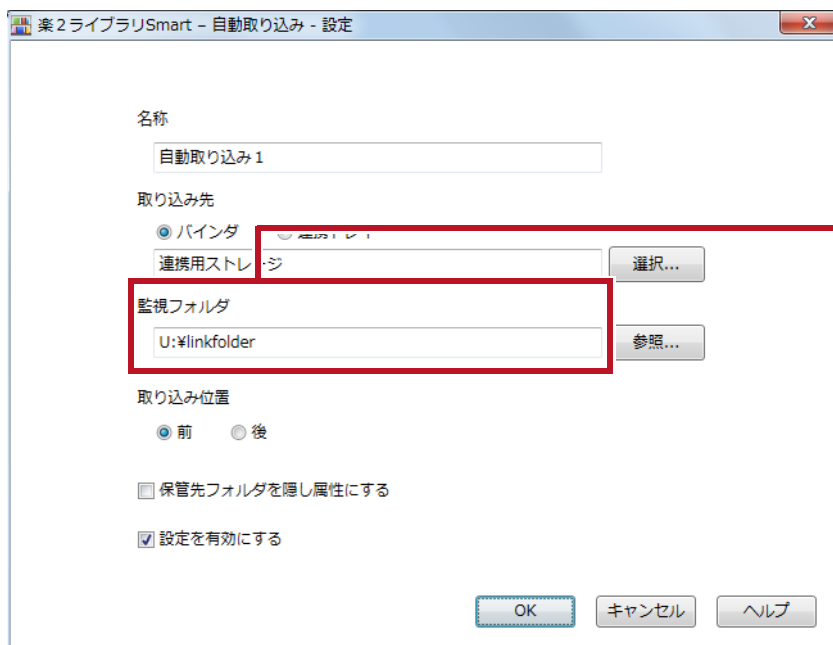
2. クリック



[取り込み先] に選択したストレージ  
名が表示されます。

[取り込み先] にはストレージ名のみ  
表示され、書庫、キャビネット名、お  
よびバインダのタイトルは表示されま  
せん。

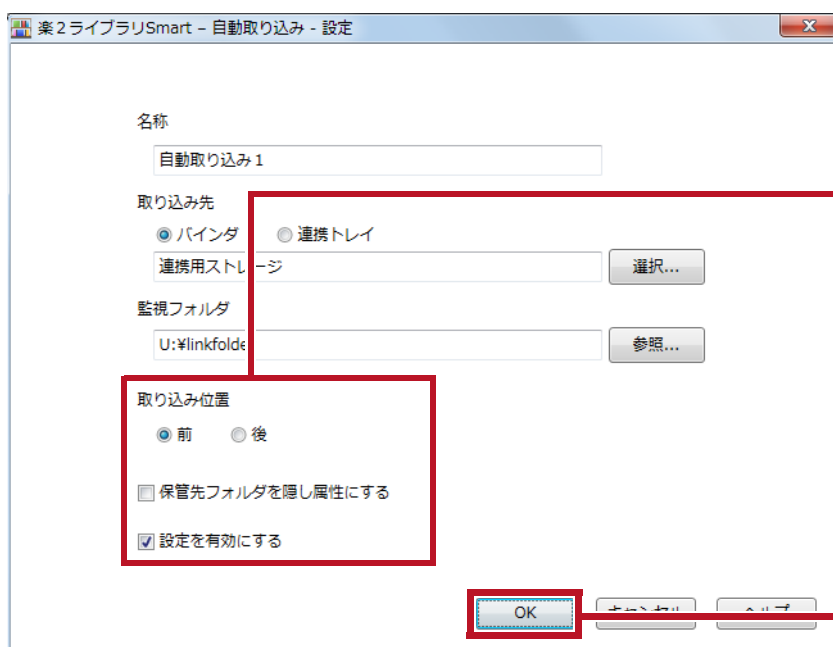
8.



監視フォルダを選択

[監視フォルダ] は [参照] ボタンをクリックしてフォルダを選択します。または、フォルダをフルパスで指定します。

9.

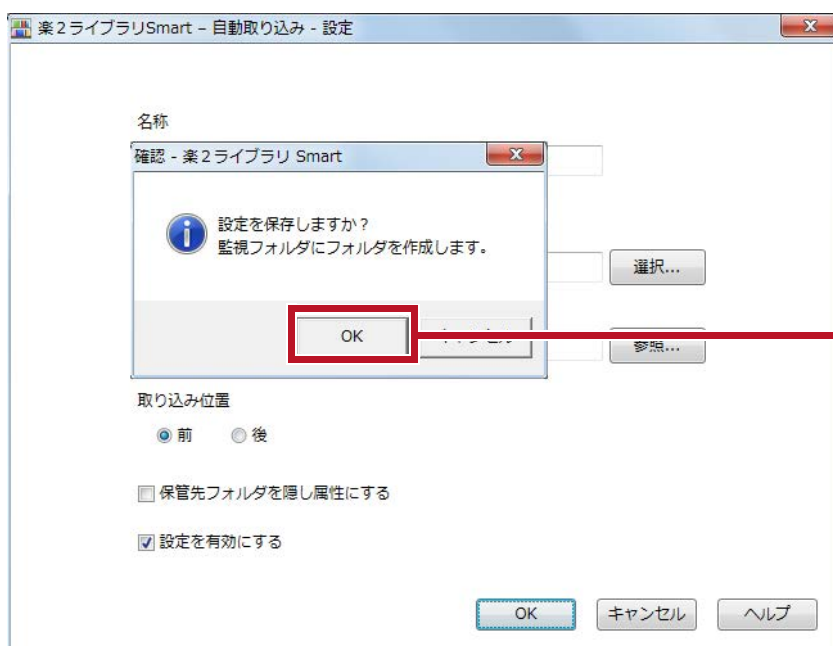


その他の項目を設定

設定のみを行い、設定した内容で自動取り込みを開始しない場合は、「設定を有効にする」のチェックをはずします。その他の設定項目については、『楽2ライブラリ Smart ヘルプ』を参照してください。

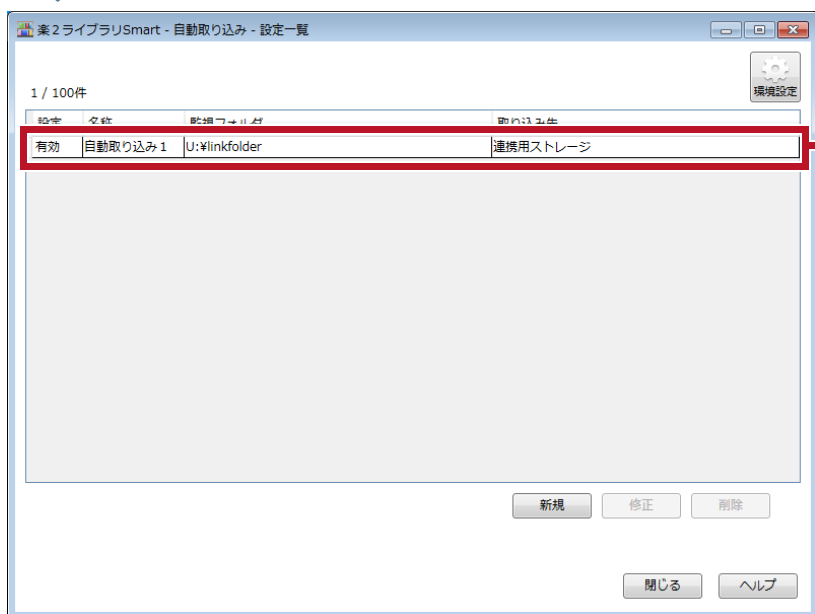
クリック

10.



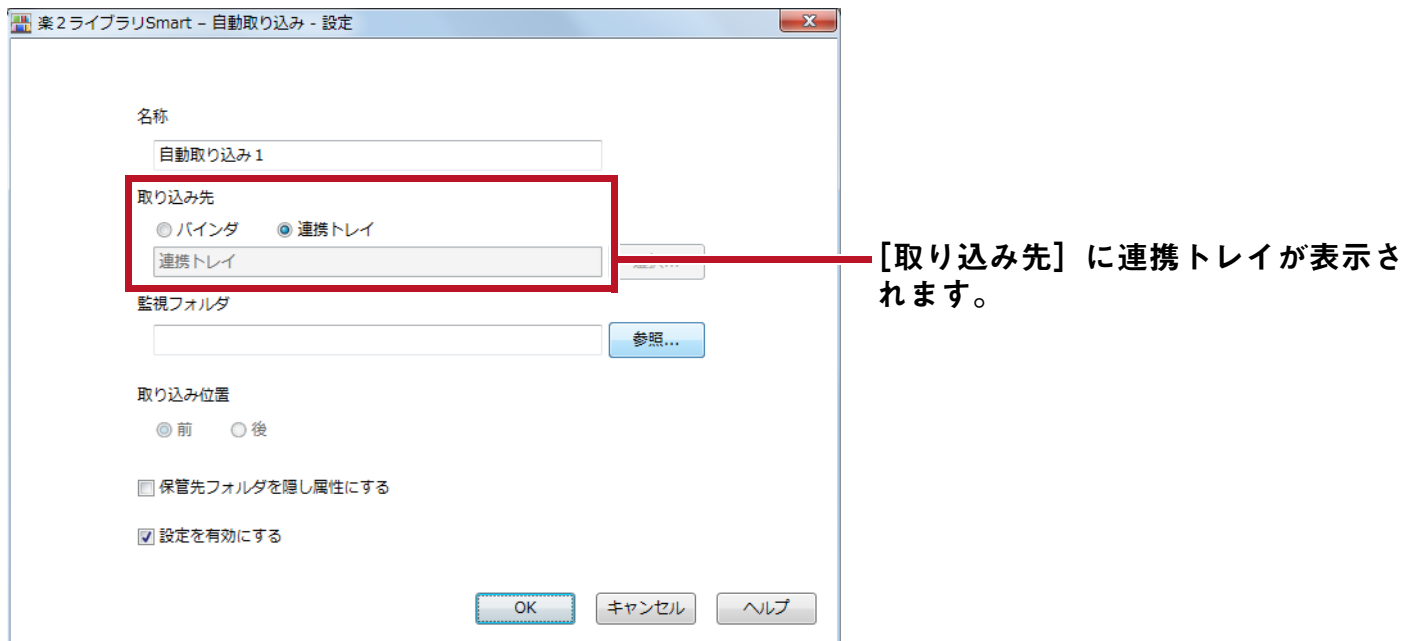
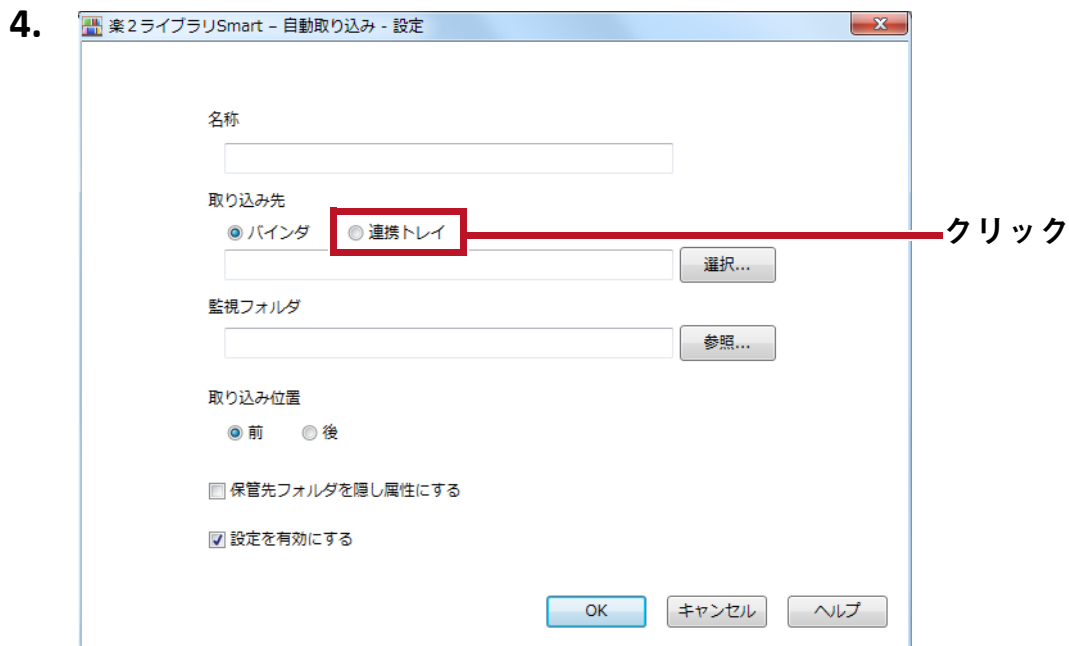
クリック

監視フォルダとして選択したフォルダの配下に、取り込み先として選択したバイнда構成に対応するフォルダが作成されます。

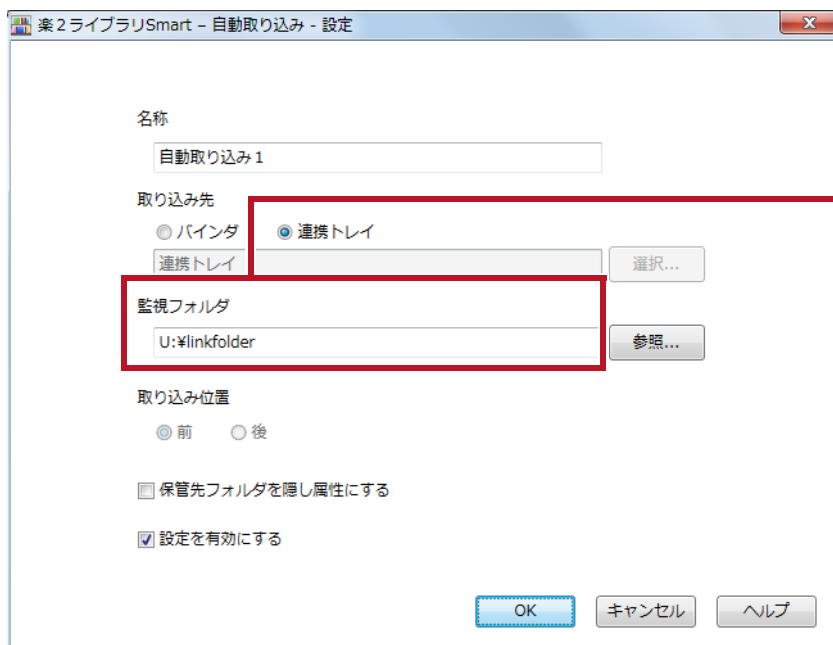


作成した設定が表示されます。

## ●連携トレイとフォルダを連携する場合



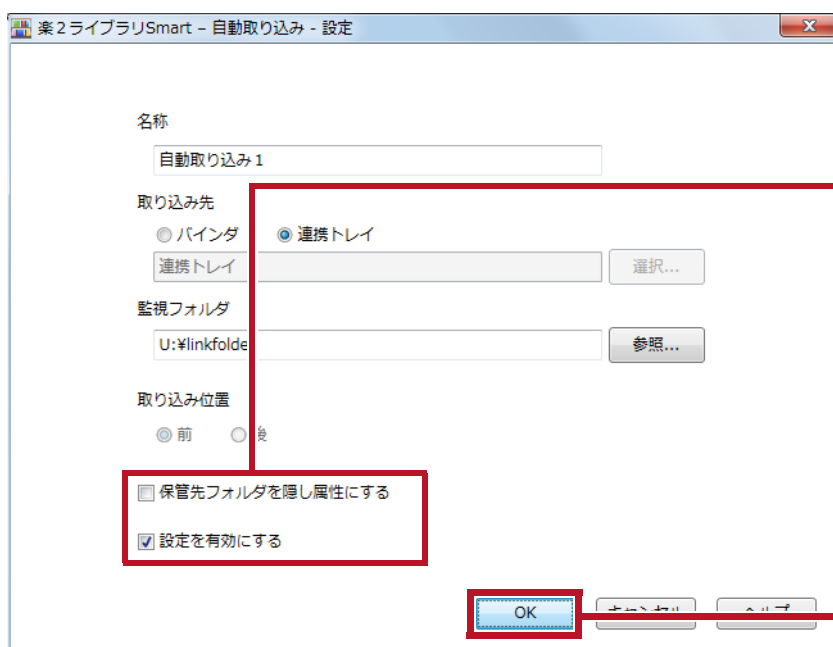
5.



監視フォルダを選択

[監視フォルダ] は [参照] ボタンをクリックしてフォルダを選択します。または、フォルダをフルパスで指定します。

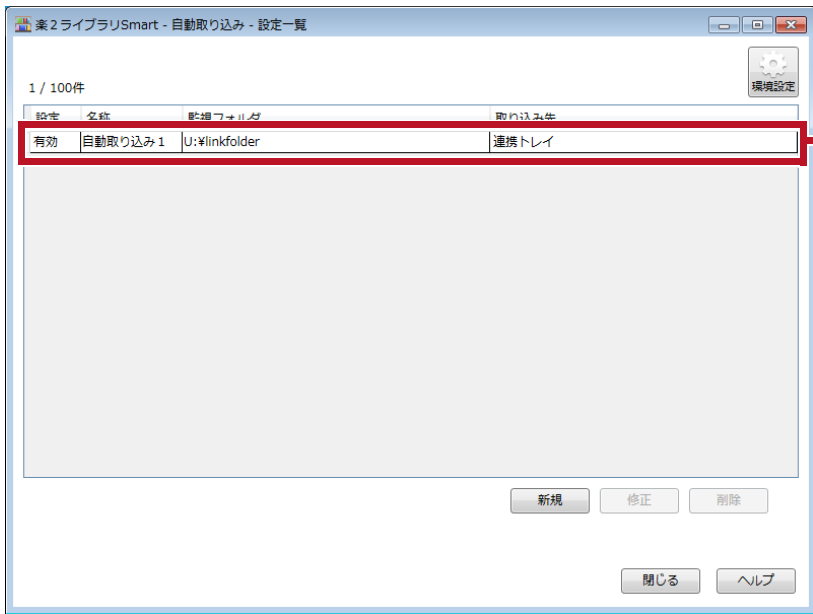
6.



その他の項目を設定

設定のみを行い、設定した内容で自動取り込みを開始しない場合は、「設定を有効にする」のチェックをはずします。その他の設定項目については、『楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart ヘルプ』を参照してください。

クリック



作成した設定が表示されます。

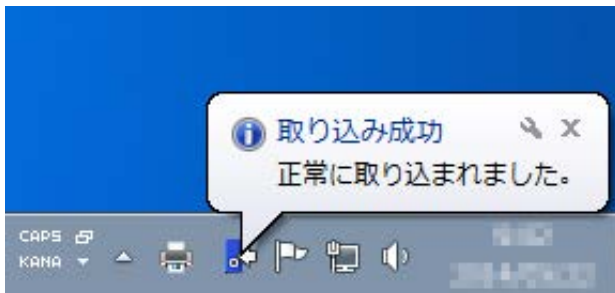
### 3. ファイルを取り込みます（動作確認）

ファイルを監視フォルダにコピーまたは移動し、バイндаまたは連携トレイに取り込みます。

#### 操作

1. Windows のタスクトレイに  が表示されていることを確認します。

2.  コピーまたは移動



取り込み中は Windows のタスクトレイに  が表示されます。

取り込みが終了すると、取り込み結果をポップアップバルーンで通知します。

#### 備考：取り込まれたファイルの保管先

取り込まれたファイルは、監視フォルダ配下の保管先フォルダに保管されます。保管先フォルダについては、「仕様と注意事項」（27 ページ）を参照してください。

## 4. 取り込み結果を確認します

取り込み結果一覧を表示し、ファイルがバイндаまたは連携トレイに正常に取り込まれたか、確認します。

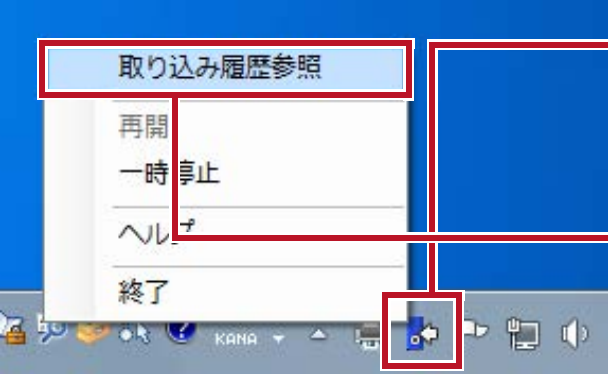

### 注意：取り込み結果一覧で確認できる取り込み結果

取り込み結果一覧から取り込み結果を確認できるのは、ファイルを取り込んだユーザーのみです。

### 4.1 取り込みに成功したか確認します

#### 操作

1. Windows のタスクトレイに  が表示されていることを確認します。

2.  1. Windows のタスクトレイにある  を右クリック

2. クリック  
[自動取り込み - 取り込み結果一覧] 画面が表示されます。

3.  取り込み結果を確認します。

取り込みに成功した場合、[結果] に「○」が表示されます。



## 4.2 取り込んだファイルの内容を確認します

### ● バインダとフォルダを連携した場合

バインダとフォルダを連携した場合、取り込み結果一覧からバインダを開いて、取り込まれたファイルを確認します。

#### 操作

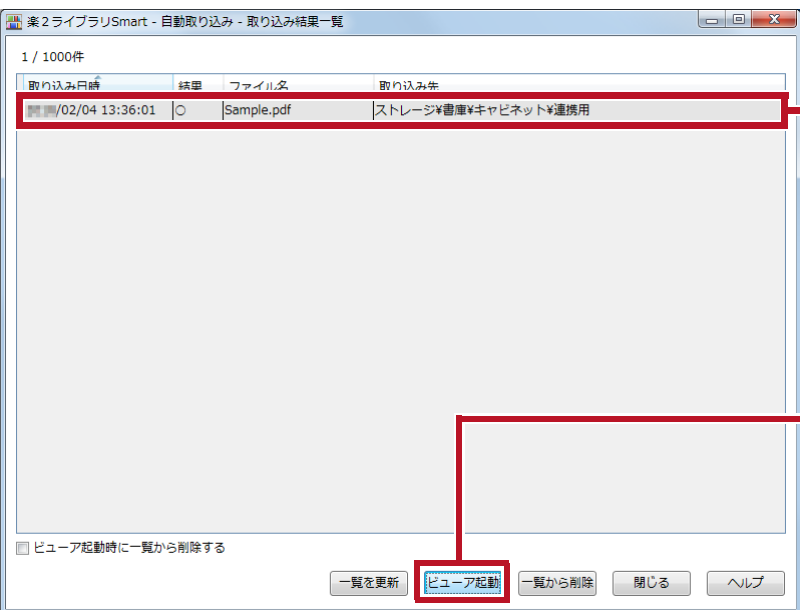
1. Windows のタスクトレイに  が表示されていることを確認します。

2.  を右クリック

1. Windows のタスクトレイにある  を右クリック

2. クリック

[自動取り込み - 取り込み結果一覧] 画面が表示されます。

3. 

1. ファイルを選択

取り込み日時	結果	ファイル名	取り込み先
02/04 13:36:01	○	Sample.pdf	ストレージ*書庫*キャビネット*連携用

2. クリック

ビューア起動時に一覧から削除する

一覧を更新 **ビューア起動** 一覧から削除 閉じる ヘルプ



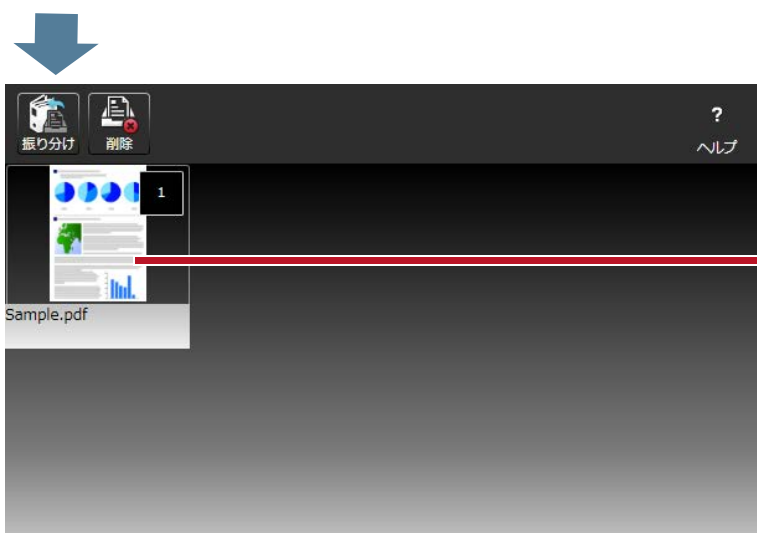
取り込み先に設定したバインダを開いて、ファイルが取り込まれたことを確認します。

## ● 連携トレイとフォルダを連携した場合

連携トレイとフォルダを連携した場合、キャビネット画面から連携トレイを開いて、取り込まれたファイルを確認します。

### 操作

1.  クリック



連携トレイを開いて、ファイルが取り込まれたことを確認します。




## 仕様と注意事項

自動取り込み機能の仕様と注意事項について説明します。

詳細は『楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart ヘルプ』を参照してください。

### ● タスクトレイに表示されるアイコン

Windows のタスクトレイに表示されるアイコンとアイコンが表す状態は、以下のとおりです。

アイコン	状態
	自動取り込み機能が起動済みです。自動取り込みできます。
	自動取り込み機能が取り込み処理中です。
	自動取り込み機能が取り込み処理を停止中です。

アイコンを右クリックすると、以下のメニューが表示されます。

- 取り込み履歴参照  
[自動取り込み - 取り込み結果一覧] 画面が表示されます。
- 再開  
停止中の取り込みを再開します。取り込みが停止中のときに選択できます。
- 一時停止  
取り込み処理を一時停止します。停止中に監視フォルダに格納されるファイルは、取り込み処理を再開すると取り込まれます。
- ヘルプ  
『楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart ヘルプ』を起動します。
- 終了  
自動取り込み機能を終了します。自動取り込み機能を再開するには、スタートメニューから [すべてのプログラム] - [楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart] - [自動取り込み機能] をクリックしてください。

### ● 管理できるデータの数、取り込めるファイル形式、およびストレージ

管理できるデータの数（バインダに作成できるページの最大数、キャビネットに作成できるバインダの最大数など）、取り込めるファイル形式、およびストレージに指定できるフォルダは『楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart を使おう！』の「本製品の仕様と注意事項」を参照してください。

取り込めるファイル形式であっても、ファイルが隠し属性となっている場合、取り込みできません。

## ● 取り込み先に指定できるバインダ

取り込み先として指定できるのは、ローカルドライブとネットワークドライブにあるバインダです。

### 注意：取り込み先に指定できないバインダ

以下のバインダは取り込み先として指定できません。

- クラウドストレージにあるバインダ
- ごみ箱にあるバインダ
- パスワード付きのバインダ
- 持ち出し設定を有効にして、モバイル機器へエクスポートしたバインダ
- すでに存在するバインダのタイトルに「# 数字」が付いているバインダ（連番付きバインダ）

## ● 監視フォルダに指定できるフォルダ

監視フォルダとして指定できるのは、ローカルドライブとネットワークドライブ（Windows サーバ\*1）にあり、読み込み権限、書き込み権限、および削除権限のあるフォルダです。

\*1: Windows サーバとは、Windows のオペレーティングシステムがインストールされたパソコンをファイルサーバとして運用している環境です。対応しているオペレーティングシステムは、『楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart はじめにお読みください』の「動作環境」を参照してください。

### 注意：監視フォルダとして未サポートのフォルダ

以下のフォルダを監視フォルダに指定した場合の動作はサポートしていません。

- ネットワーク対応ハードディスクドライブ（NAS：Network Attached Storage）にあるフォルダ
- クラウドストレージ上で同期されたフォルダ

## ● 保管先フォルダ（「Succeeded」フォルダ、「Failed」フォルダ）

取り込まれたファイルは、監視フォルダ配下の保管先フォルダに保管されます。保管先フォルダは以下の名前で作成されます。

- Succeeded

取り込みに成功した場合、「Succeeded」フォルダの配下に取り込んだ日付を表す名前のフォルダが作成され、その中に取り込んだファイルが移動されます。

- Failed

取り込みに失敗した場合、「Failed」フォルダの配下に取り込みに失敗した日付を表す名前のフォルダが作成され、その中に取り込んだファイルが移動されます。

保管先フォルダに移動されたファイルはあらかじめ設定した期間が経過すると削除されます。保管先フォルダで保管する期間は、キャビネット画面の [設定・復元] - [環境設定] をクリックし、[環境設定] 画面の [自動取り込み] タブで変更できます。

## ● 取り込み結果の通知

取り込み処理の結果の通知を停止できます。また、取り込み処理で異常があった場合のみ通知されるように設定できます。キャビネット画面の [設定・復元] - [環境設定] をクリックし、[環境設定] 画面の [自動取り込み] タブで設定できます。

## ● 取り込み結果の一覧

- 取り込み結果一覧に表示できる件数は、最大 1000 件です。
- 保管期間を過ぎている保管先フォルダのデータが削除された場合、取り込み結果一覧を更新すると、削除されたデータの取り込み結果が削除されます。また、結果一覧の表示件数が 1000 件を超えた場合は、保管先フォルダの保管期間に関係なく、一番古い取り込み結果から削除されます。
- [自動取り込み - 取り込み結果一覧] 画面で、「ビューア起動時に一覧から削除する」にチェックを付けた場合、[自動取り込み - 取り込み結果一覧] 画面からビューア画面を起動すると、選択した取り込み結果が一覧から削除されます。

## ● 自動取り込みの設定をしたバインダを操作する場合

自動取り込みの設定をしたストレージ、書庫、キャビネット、またはバインダには、以下の操作をしないでください。以下の操作をした場合、バインダへ自動取り込みができなくなります。

- ストレージ、書庫、キャビネットの名前、またはバインダのタイトルを変更する
- ストレージ、書庫、キャビネット、またはバインダを削除する
- バインダを別のキャビネットに移動する
- 持ち出し設定を有効にして、バインダをモバイル機器へエクスポートする
- バインダにパスワードを設定する

自動取り込みを行ったときにポップアップバルーンに「取り込み先が変更されました。設定内容を確認してください。」というメッセージが表示された場合は、ネットワークドライブなどにあるバインダが他のユーザーによって操作されたり、自動取り込み機能が無効になっているときにバインダを操作したりしたため、自動取り込みできない状態です。

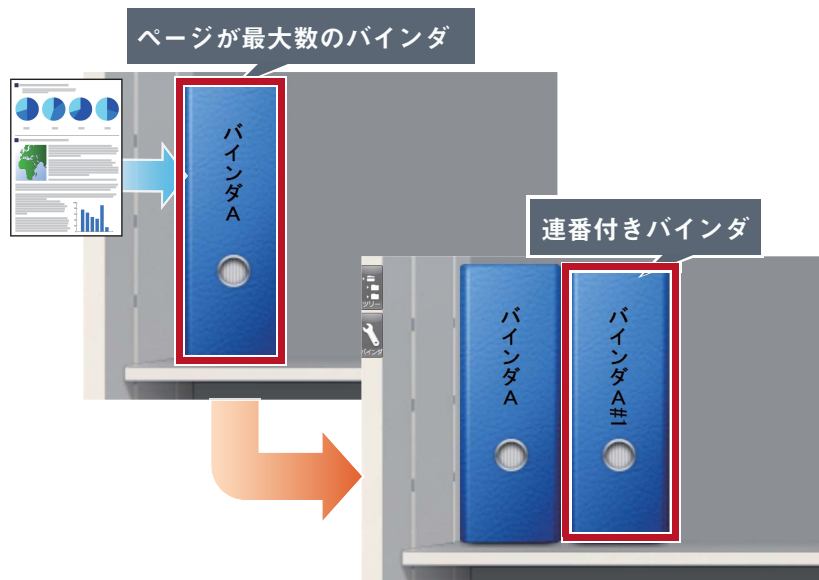
再度、バインダへ自動取り込みを行うには、設定内容を確認して、必要に応じて設定を新しく作成するか設定内容を変更してください。

## ● 取り込み処理中のバインダ

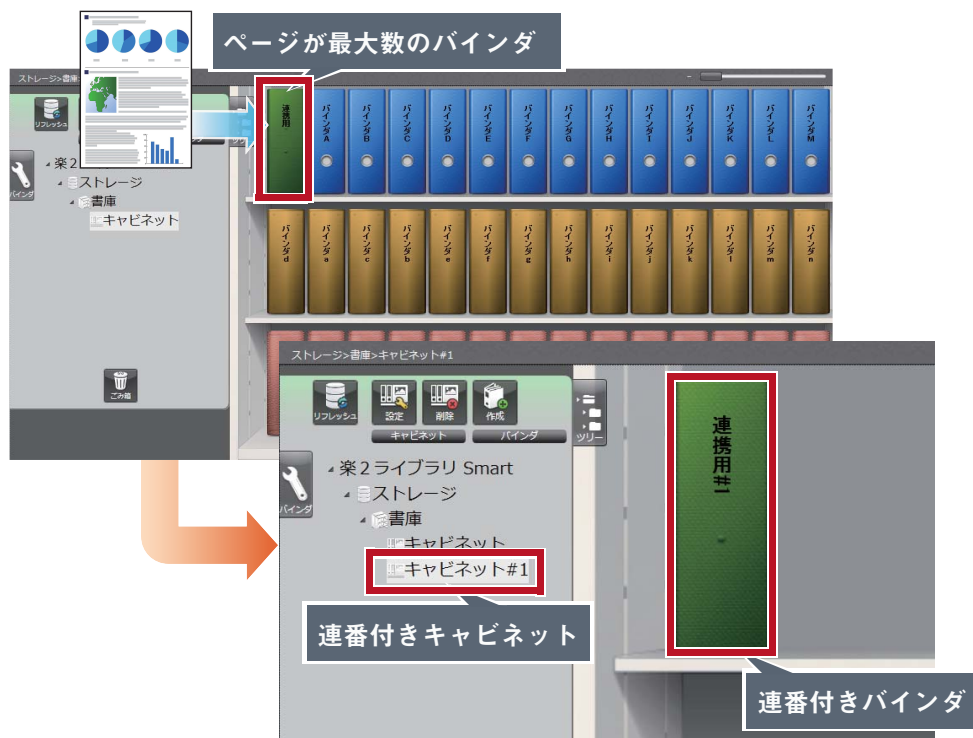
取り込み処理中のバインダを開くと、閲覧モードで表示されます。バインダを編集する場合は、取り込み処理が終了してからバインダを開くか、Windows のタスクトレイのアイコンを右クリックして取り込み処理を一時停止してからバインダを開いてください。

## ● バインダのページが最大数に達した場合

取り込み先のバインダのページが最大数に達すると、新しく取り込みをしたときに、「バインダタイトル # 数字 (バインダタイトル #1 など)」というバインダが作成されます。このバインダを「連番付きバインダ」といいます。ファイルは最新の連番付きバインダに取り込まれます。



連番付きバインダが作成される場合、キャビネットのバインダが最大数に達しているときには、「キャビネット名#数字（キャビネット名#1など）」というキャビネット作成されます。このキャビネットを「連番付きキャビネット」といいます。新しく作成される連番付きバインダは、このキャビネットで保管されます。



### 備考：連番付きバイндаの作成先

キャビネットの状態によって、連番付きバイндаの作成されるキャビネットが変わります。

- 元のバイндаがあるキャビネットに空きがある場合  
元のバイндаと同じキャビネットに連番付きバイндаが作成されます。
- 元のバイндаがあるキャビネットに空きがない場合で、すでに存在する連番付きキャビネットに空きがあるとき  
空きがある連番付きキャビネットのうち、追加された数字が最小の連番付きキャビネットに、連番付きバイндаが作成されます。
- 元のバイндаがあるキャビネットも、すでに存在する連番付きキャビネットも空きがない場合  
新しい連番付きキャビネットが作成され、そのキャビネットに連番付きバイндаが作成されます。

### ● 連携トレイのデータが最大数を超えた場合

連携トレイに取り込めるファイルは、100 ファイルまでです。連携トレイのデータが 100 ファイルを超えた場合、ファイルは連携トレイに取り込まれません。ポップアップバルーンに「取り込み失敗」が表示されます。連携トレイのデータをバイндаへ取り込むか、不要なデータを削除してから、再度取り込みを行ってください。

### ● 複数の楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart から監視フォルダを指定する場合


複数の楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart で自動取り込み機能を利用する場合、同じフォルダを監視フォルダに指定していないか、確認してください。同じフォルダを監視フォルダに指定した場合の動作はサポートしていません。

## 困ったときには


### ● 自動取り込み設定の「取り込み先選択」画面で、取り込み先バイндаを選択できない

- 取り込み先バイндаが存在するか確認してください。  
取り込み先のバイндаは、「取り込み先選択」画面を開く前に作成してください。
- 取り込み先バイндаのあるストレージ、書庫、またはキャビネットを確認してください。  
取り込み先として選択できるのは、ローカルドライブとネットワークドライブにあるバイндаのみです。クラウドストレージやごみ箱にあるバイндаは取り込み先として選択できません。
- 他の設定ですでに連携されていないか確認してください。  
他の設定で取り込み先に設定されたバイндаは、選択できません。
- 同じ名前のバイндаがないか確認してください。  
キャビネットに同じ名前のバイндаが複数ある場合、それらのバイндаのうち、ひとつしか取り込み先として選択できません。
- バイндаタイトルの後ろに「# 数字」（バイндаタイトル #1 など）が表示されていないか確認してください。  
すでに存在するバイндаタイトルの後ろに「# 数字」が表示されている場合、連番付きバイндаである可能性があります。連番付きバイндаは取り込み先として選択できません。
- Windows でファイル名やフォルダ名に指定できない文字列が、バイндаのタイトルに指定されていないか確認してください。  
「データ移行ツール for 楽<sup>2</sup>ライブラリ パーソナル」でデータを移行した場合、Windows ではファイル名やフォルダ名として指定できない文字列が、バイндаのタイトルに指定されていることがあります。楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart では、これらの文字列をバイндаのタイトルに使用できないため、取り込み先として選択できません。  
使用できない文字については、『楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart ヘルプ』の「仕様」 - 「キャビネット画面の仕様」 - 「入力できない文字」を参照してください。


### ● 監視フォルダにファイルをコピーまたは移動したが、バイндаまたは連携トレイに取り込まれていない

- パソコンがスリープ状態または休止状態ではないか確認してください。  
パソコンがスリープ状態または休止状態の場合は、自動取り込み機能が停止します。常に取り込みを行う場合は、パソコンの電源設定で、スリープ状態または休止状態にならないように設定してください。
- Windows のタスクトレイのアイコンを確認してください。  
Windows のタスクトレイに自動取り込み機能のアイコンが表示されていない場合、パソコンに再度ログインするか、スタートメニューの「自動取り込み機能」をクリックして、自動取り込み機能を起動してください。  
Windows のタスクトレイに  が表示されている場合、アイコンを右クリックして、「再開」を選択し、自動取り込みを再開してください。



Windows のタスクトレイに  が表示されたままの場合、ファイルに関連付けされているアプリケーションが応答を待っている場合があります。アプリケーションのメッセージが表示されていないか確認してください。

- 取り込み結果一覧にエラーが表示されていないか確認してください。

Windows のタスクトレイの  を右クリックし、[取り込み履歴参照] をクリックしてください。[自動取り込み - 取り込み結果一覧] 画面が表示されます。

取り込みに失敗した場合、[結果] に「×」が表示されます。「×」をクリックして、表示されるエラーの内容を確認してください。

- 監視フォルダを確認してください。

ファイルが監視フォルダ配下の「Succeeded」フォルダに移動されずに、監視フォルダに残っている場合、ファイル形式を確認してください。

取り込みできないファイル形式の場合、ファイルはバイндаまたは連携トレイに取り込まれません。取り込みできるファイル形式は『楽<sup>2</sup> ライブラリ Smart を使おう!』の「本製品の仕様と注意事項」を参照してください。

- 再度、取り込み処理を行っていないか確認してください。

取り込み処理でファイルを取り込めなかった場合、一定時間後に再度取り込み処理が行われることがあります。取り込み処理を行ったときに表示されるポップアップバルーンのメッセージまたは取り込み結果一覧を確認してください。

## ● ポップアップバルーンに「取り込み成功」が表示されたが、取り込み先のバイндаに取り込んだファイルが見つからない


取り込み先のバイндаのページが最大数に達している場合、連番付きバイндаにファイルが取り込まれます。

以下のいずれかの方法で、取り込まれたファイルを確認してください。

- [自動取り込み - 取り込み結果一覧] 画面で、取り込んだファイル名を選択し、[ビューア起動] ボタンをクリックしてバイндаを開き、取り込まれたファイルを確認してください。
- キャビネット画面で取り込み先バイндаがある書庫を選択して、バイндаのタイトルで検索してください。検索結果から、連番付きバイндаのうち、タイトルに追加された数字が最大のバイндаを選択して、取り込まれたファイルを確認してください。

## ● ポップアップバルーンに「取り込み失敗」が表示された

以下のいずれかの方法で、「取り込み失敗」の原因を確認してください。

- 取り込みを行ったときに表示される、ポップアップバルーンのメッセージを確認してください。
- Windows のタスクトレイの  を右クリックし、[取り込み履歴参照] を選択してください。[自動取り込み - 取り込み結果一覧] 画面が表示されます。取り込みに失敗した場合、[結果] に「×」が表示されます。「×」をクリックして、表示されるエラーの内容を確認してください。

- **共有ストレージのバインダにファイルを取り込んだが、他のユーザーに取り込み結果が通知されない**

取り込み結果が通知されるのは、ファイルの取り込みを行ったユーザーのみです。他のユーザーには取り込み結果が通知されません。

共有ストレージのバインダにファイルを取り込んだことを他のユーザーに知らせたい場合は、該当ページに付箋紙やスタンプなどを追加して、知らせてください。

## 本書の記載について

### ● オペレーティングシステムの表記

オペレーティングシステム	本書での表記	
Windows Server® 2012	Windows Server 2012	Windows
Windows Server® 2008	Windows Server 2008	
Windows Server® 2003	Windows Server 2003	
Windows® 10 Home operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)	Windows 10	
Windows® 10 Pro operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 10 Enterprise operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 10 Education operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 8.1 operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)	Windows 8.1	
Windows® 8.1 Pro operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 8.1 Enterprise operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 8 operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)	Windows 8	
Windows® 8 Pro operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 8 Enterprise operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 7 Starter operating system 日本語版 (32 ビット版)	Windows 7	
Windows® 7 Home Premium operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 7 Professional operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 7 Enterprise operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows® 7 Ultimate operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows Vista® Home Basic operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)	Windows Vista	
Windows Vista® Home Premium operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows Vista® Business operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		
Windows Vista® Enterprise operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)		

オペレーティングシステム	本書での表記	
Windows Vista <sup>®</sup> Ultimate operating system 日本語版 (32 ビット版、64 ビット版)	Windows Vista	Windows
Windows <sup>®</sup> XP Home Edition operating system 日本語版	Windows XP	
Windows <sup>®</sup> XP Professional operating system 日本語版 (32 ビット版)		

## ● 本書の画面について

本書では、Windows 7 の画面写真を操作説明に使用しています。

## ● 商標

- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- 楽<sup>2</sup>ライブラリ、および楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart は、株式会社 PFU の日本における登録商標または商標です。
- その他の商品名、会社名は、一般に各社の商標または登録商標です。

---

**楽<sup>2</sup>ライブラリ Smart**  
**自動取り込み機能 設定ガイド**

P2WW-3401-01Z0

発行日 2016年3月

版数 初版

発行責任 株式会社 PFU

---

- 本書の内容は、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社は一切その責任を負いません。
- 無断転載を禁じます。